



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	アカデミック・サポートとピア・サポートによる学習支援
Author(s)	日吉, 大輔; 岡本, 健
Relation	平成22年度IDE大学セミナー. 平成22年8月19日~平成22年8月20日. ホテル札幌ガーデンパレス, 札幌市.
Issue Date	2010-08-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/43898
Type	conference presentation
File Information	20100820IDE.pdf,





北海道大学

2010年度 IDE 大学セミナー 資料

アカデミック・サポートとピア・サポートによる 学習支援

日吉 大輔

北海道大学
高等教育機能開発総合センター
アカデミック・サポート推進室

岡本 健

北海道大学大学院
国際広報メディア・観光学院
博士後期課程
(ピア・サポーター代表)

学習サポート



アカデミック・サポート推進室による学習サポート

背景

北大「総合入試」

- 2011 年度入試から
- 新制度下の多様な学生へのきめ細かな学習・修学支援
- 学生の主体的な学習を支援



アカデミック・サポート推進室による学習サポート

概要

- チューター(大学院生TA)が質問受付,
学習方法の助言, 個別対応
- 主に 1, 2 年生対象
- 1~2月に試行, 4月
から稼動
- 利用者数のべ 326人

(2010.8.6 現在)



大学院生チューター10名

運営体制

- アカデミック・サポート推進室スタッフ 7名
(専門職員6＋事務1)
- 大学院生チューター 10名

チューターの人選

- 心あたりに直接打診
- 教員に紹介依頼

12 13 14 15 16 17

チューターに合わせた時間割

 数学, 統計, 物理, 化学, 生物, 情報学, 英語, 中国語, ドイツ語, フランス語, 文章添削

 12:00~17:30

 時間外は推進室スタッフが対応

	12	13	14	15	16	17
月	英語					
				中国語		
				フランス語		
				数学・統計		
				物理		
火	英語					
	数学・統計					
	物理					
					文章添削	
水	英語					
	中国語					
			ドイツ語			
木	数学・統計					
	情報学					
					文章添削	
	英語					
金				英語		
				ドイツ語		
				数学・統計		
	情報学					
	化学・生物					

サポート場所



利用状況

今年度4月から(2010年4月19日～8月6日)

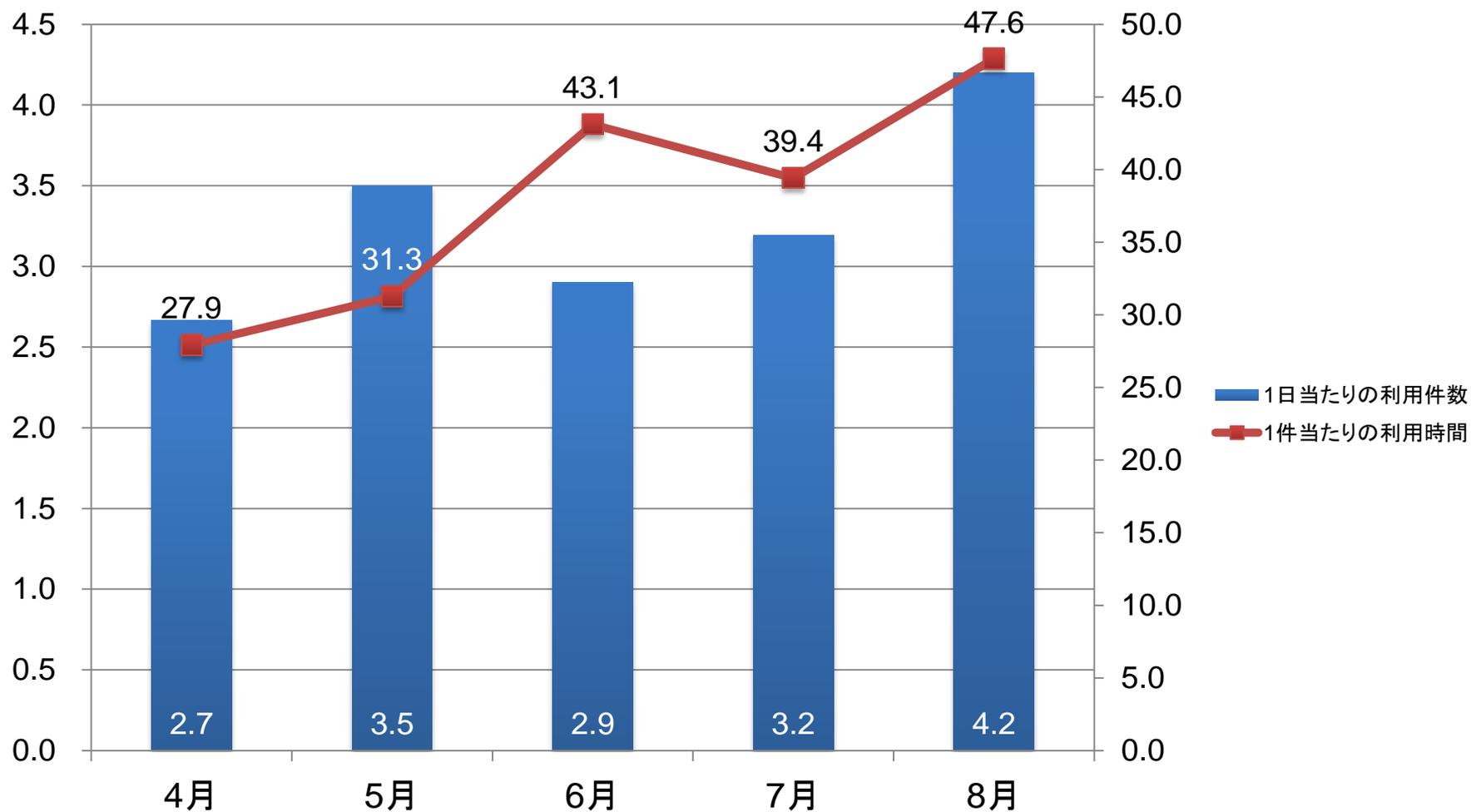
	利用件数	利用人数	利用時間／時
全体	233	280	146.3
1日平均	3.2	3.8	2.0

昨年度試行(2010年1月18日～2月19日)

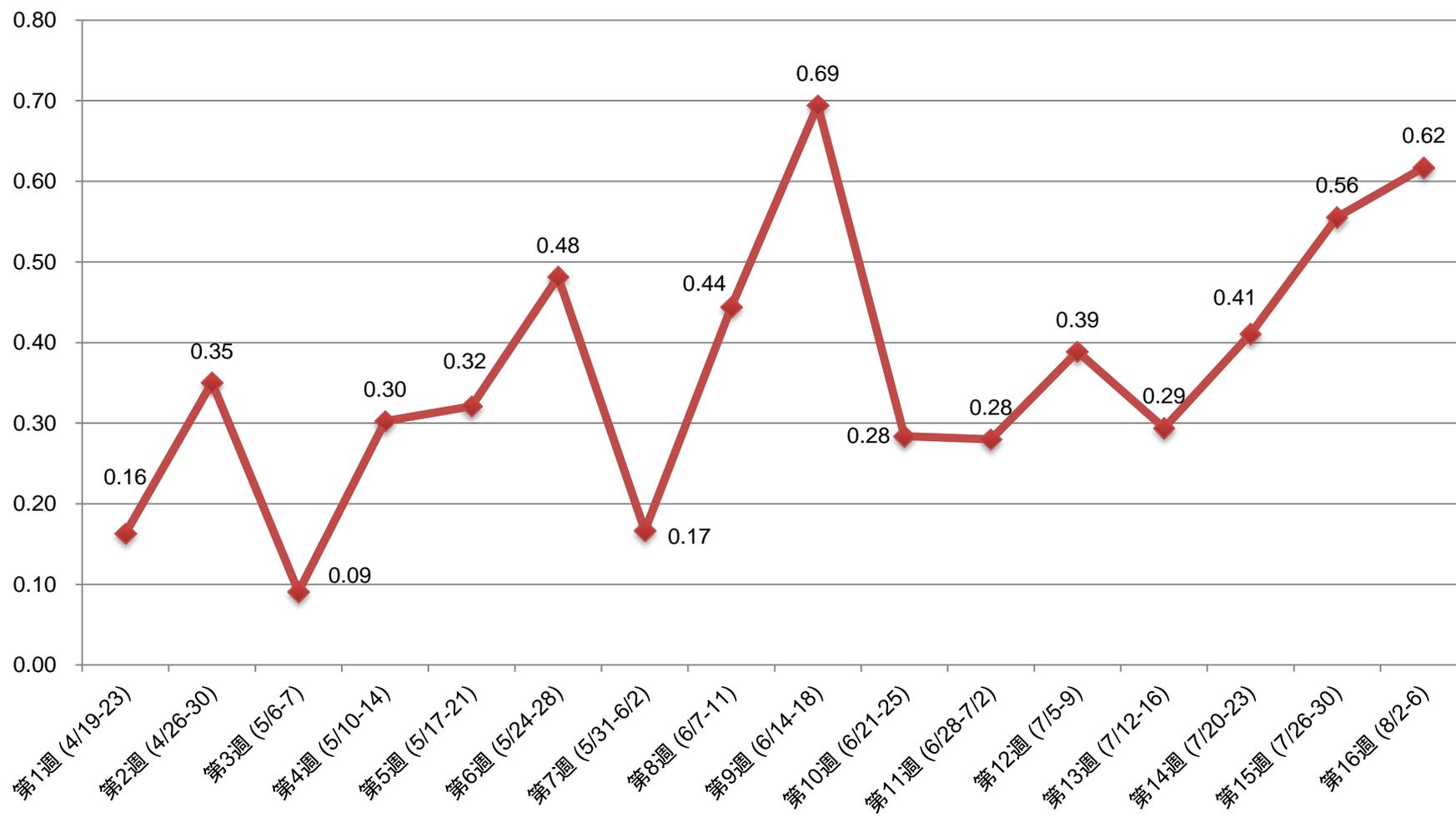
	利用件数	利用人数	利用時間／時
全体	40	46	25.3
1日平均	1.4	1.6	0.9



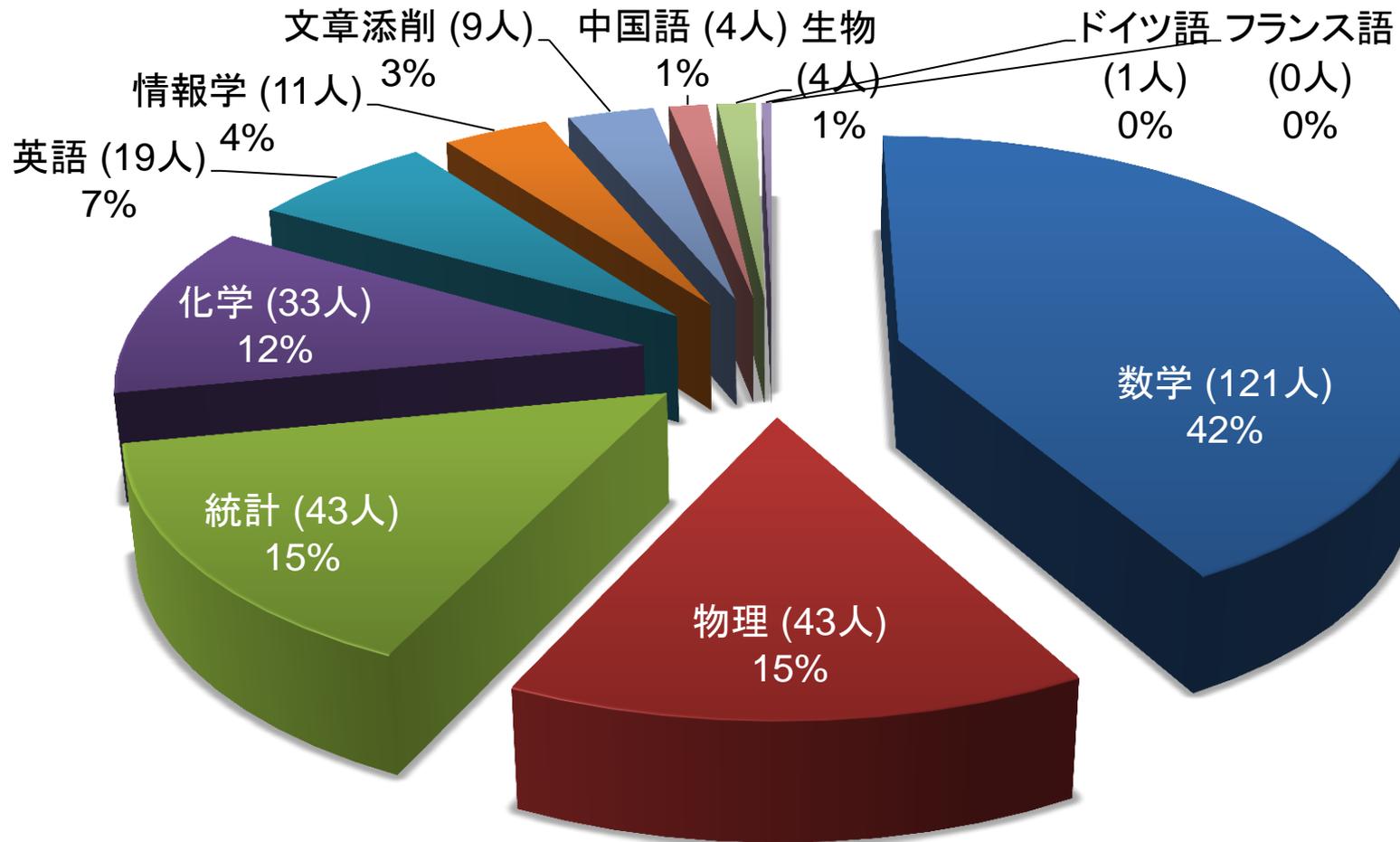
月別の利用状況



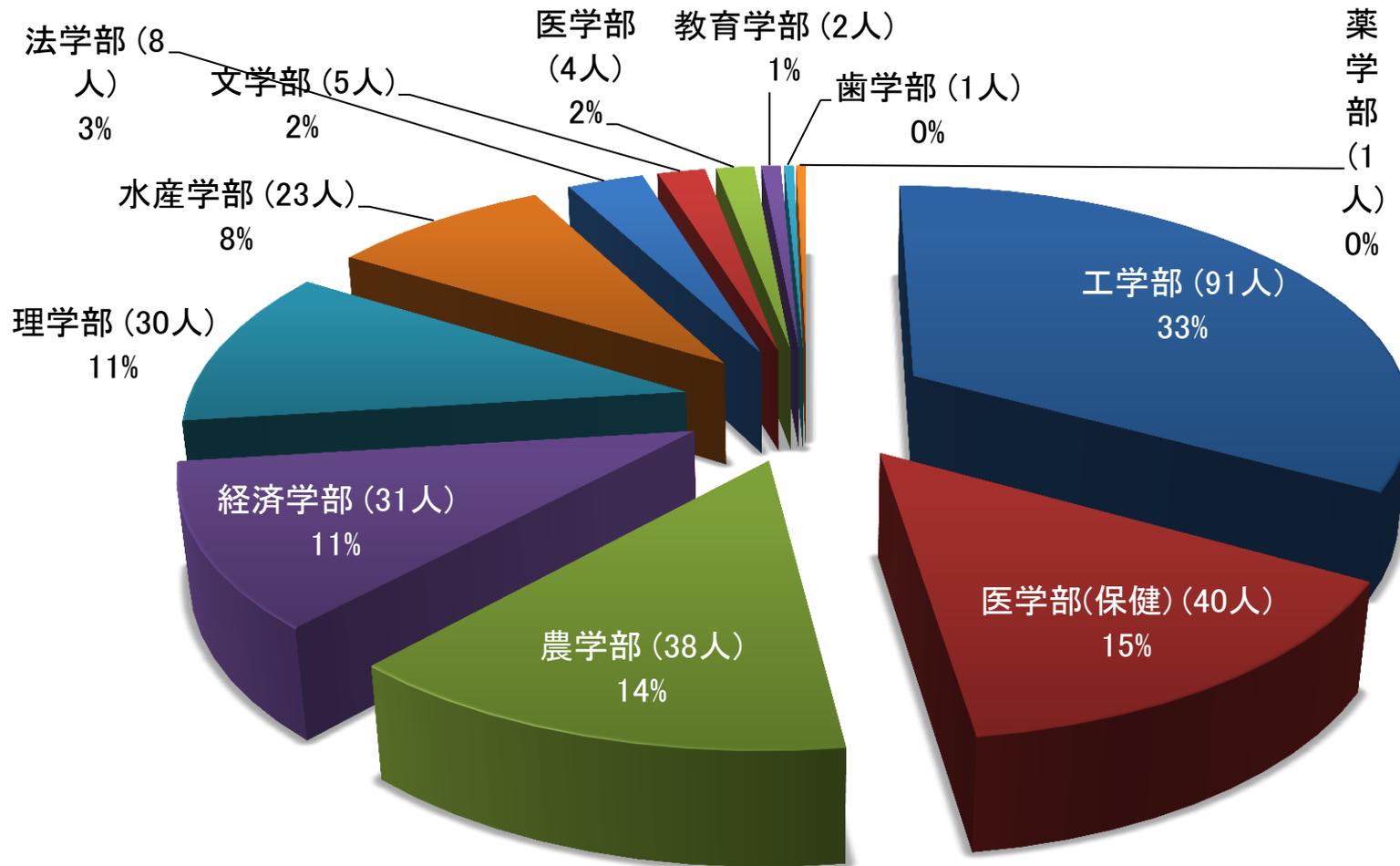
稼働率（週別）



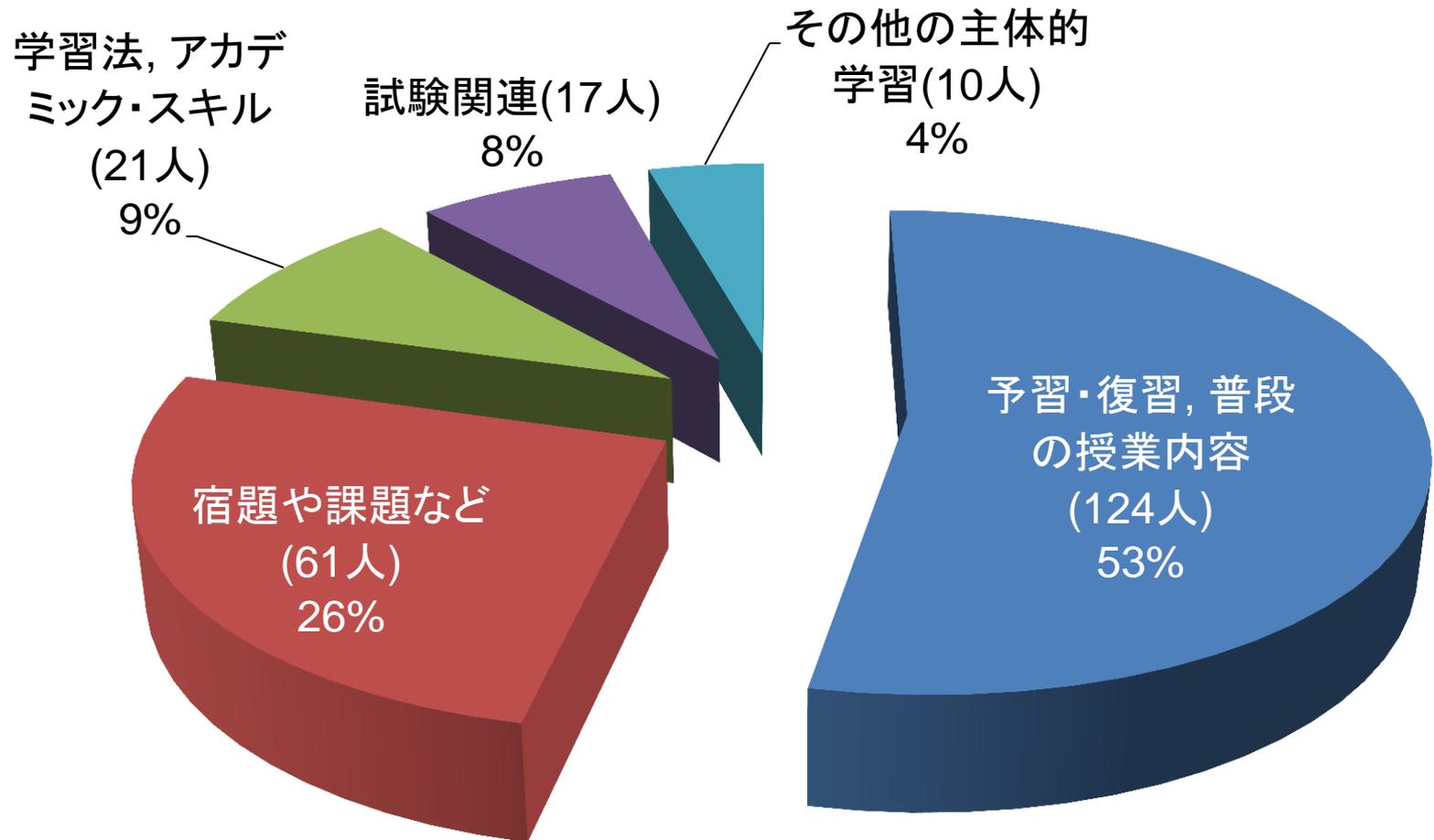
科目ごとの利用人数



学部ごとの利用状況

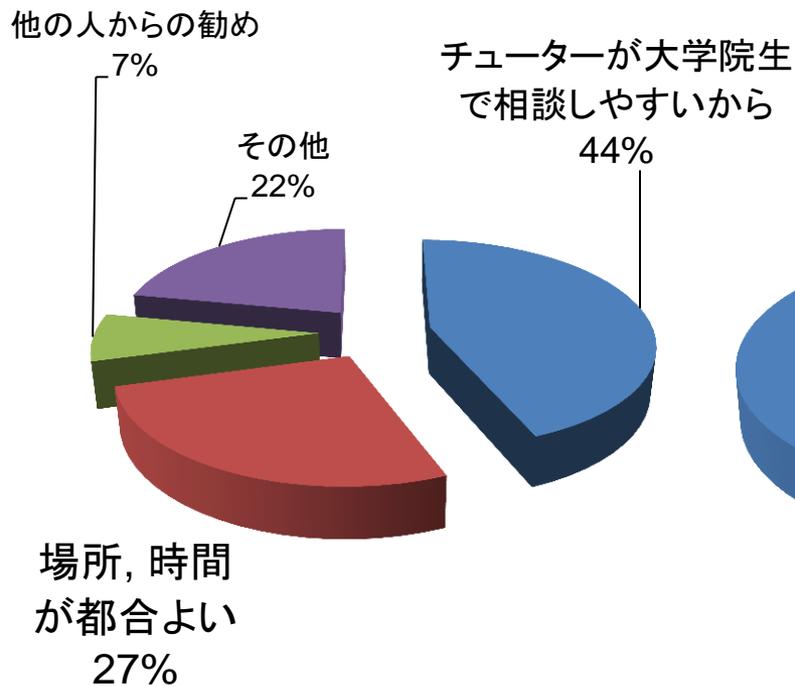


相談内容

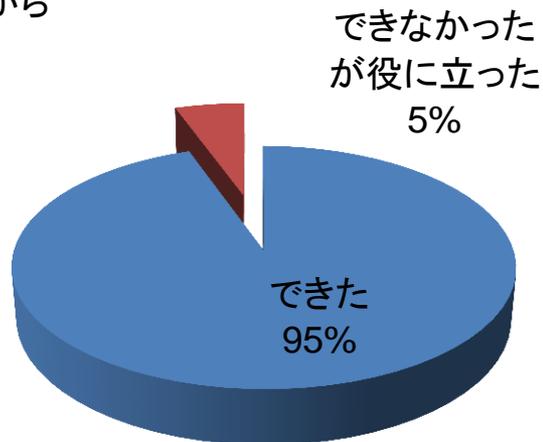


学生の満足度（アンケートデータ）による評価

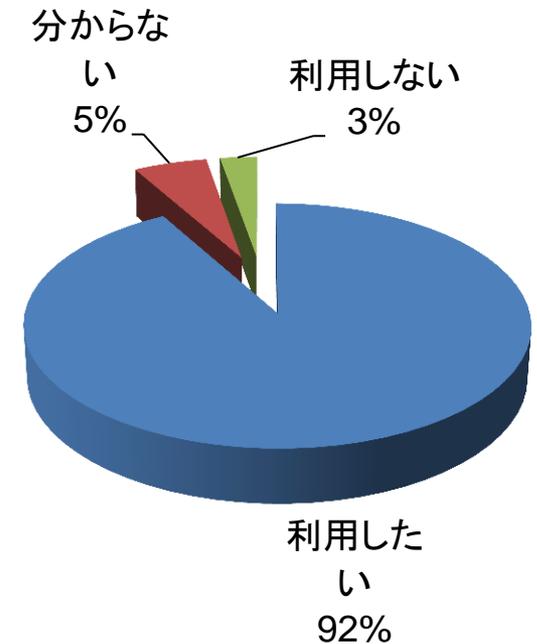
利用した理由



問題解決



また利用したいか



評価

アウトプットでの評価

- 利用数: 1学年学生の1割
- リポート率: 5割以上
- 相談時間: 1件当たり40分

アウトカムの評価: 今後の課題

- 利用学生の主体的な学習への貢献度
- 利用学生・科目の成績調査
- チューターへの教育的効果

今後の学習サポート

- より多くの学生に活用してもらうための宣伝・ニーズの把握
- ライティング・プレゼンなど学習スキルを強化するための個別指導
- 正課とどのように関係していくか



学習スキル セミナー



推進室スタッフによるセミナー

学習スキルセミナー概要

- 学習スキルの開発
- 2010.5.18～6.17 実施
- 参加者は延べ50人
(一回あたり6名)くらい
- 火・木 16:30～17:30 (約60分間)
- 全4回実施, 予約不要, 自由参加
(関心のある回だけでも参加可能)
- 1週間で同じ内容を2度
(時間の空いている曜日に参加できる)



各回の内容

第1回 ノートの取り方

ノートを取る目的や意義

第2回 シラバス活用法と予 習復習

シラバスの読み方・疑問の明確化・

自習の手順化

第3回 情報リテラシー

文献探索とネット・情報の信頼性

第4回 文章の読み方と書き方

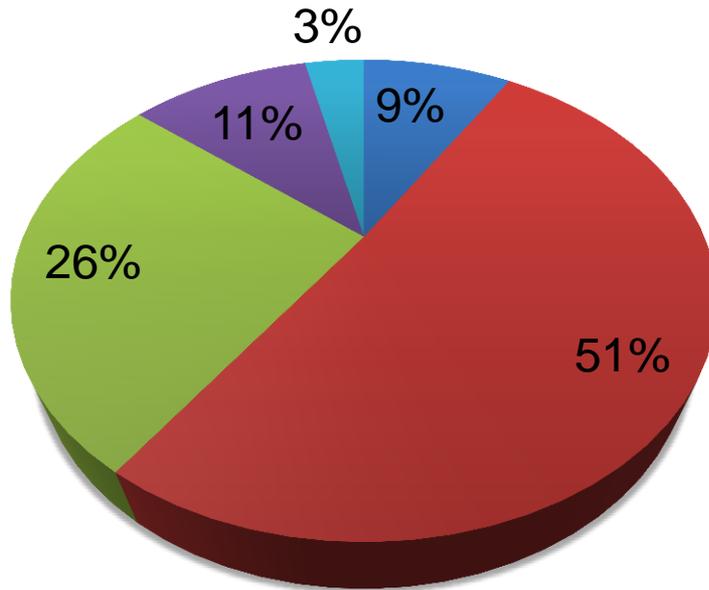
レポート作成の手順・文章要約



各回でエクササイズ・
グループワークを
おこないました

学生の参加理由

アンケート



- 学習方法がわからない・自分の学習方法に不安がある
- 情報収集のため
- より高度な学習方法が知りたい
- テーマが面白そうだから
- 授業についていけない (全学教育の授業についていけない)

学習スキルセミナー 今後の予定

- 2010 年第2学期にも
- プレゼン方法や学習・研究テーマの選び方など, 1学期とは異なる内容で実施予定
- グループワーク等, エクササイズにも多くの時間を割り当てたい



ピア・サポート

学生組織によるピア・サポート活動

背景

- 大学生生活には数々の**悩み**がある。

学生生活

学問・研究

就職・進路

etc.

- **相談できる相手**がいれば問題は無いが・・・。
- **個人化**が進んだことでふとした時に相談できる相手がない。
- 一方で、学内では、**学生支援のための組織やシステム、人材**といった資源がすでにある。
- 学生とそうした組織をつなぐ**役割**を担う組織が必要

学生組織によるピア・サポート活動

概要

- ピア・サポーターが、学生からの相談を受け、その解決をはかる、あるいは、解決が可能な組織を紹介することが主たる業務
- ピア・サポーターの構成
 - 学部生：6人（男性3人、女性3人）
 - 大学院生：5人（男性2人、女性3人）
- 2009年11月に試行，
2010年4月より本格稼働
- 現在、ボランティア相談室を
間借り、2010年9月より、
専用の部屋に移転予定



『学生同士のピア・サポート』北海道大学高等教育機能開発総合センター Newsletter No.82 pp.4-5
<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/cnews/82.pdf>

学生組織によるピア・サポート活動

活動報告

- ① サポートの様子
- ② 他大学のピア・サポーターとの交流・意見交換
- ③ 学生同士の交流創出イベント『略して本活』
- ④ 今後の課題と活動予定

①サポートの様子

表1. 相談人数(単位:人)

2010年4月	15
2010年5月	4
2010年6月	3
2010年7月	1

工学部、文学部、医学部のみ

学部1年、修士1年など、新入年度のみ

利用者減による
メンバーのモチベーション低下が問題

本当に悩みが少ないのであれば
こんなに素晴らしいことは無いが...

表2. 相談者の学部と学年(単位:人)

	学部1年	修士1年	合計
工学部	5	0	5
文学部	1	2	3
医学部	2	0	2
合計	8	2	10

①サポートの様子

表3. 相談内容と相談数(単位:人)

相談内容	相談数
道案内	6
履修	5
アルバイト	3
授業	2
ボランティア	2
サークル	2
学生生活全般	1
資格・試験	1
その他	1

表4. 相談者の滞在時間

	min
最小値	1
最大値	90
平均値	19.9
標準偏差	24.2

n = 19

相談内容は多様。
また、じっくりと話しているうちに
様々な悩みの掘り起しができる場合
も。

②他大学のピア・サポーターとの交流・意見交換

「ぴあのわ」に参加(ピアサポーター6名・教員2名・事務職員1名が参加)

「ぴあのわ」の概要

1. ピアサポーターの情報交換の場(名古屋工業大学中心)
2. 今回(2010年1月9日)で3回目
3. 今回の参加大学
名古屋工業大学、名古屋大学、
三重大学、日本福祉大学(初)、
北海道大学(初)
4. それぞれのピアサポーターが現状や
今後の課題、相談事例などを発表。



「ぴあのわ」の様子

③学生同士の交流創出イベント『略して本活』

企画の背景

- ピア・サポートの広報として(組織と場所の認知)
- ピア・サポーターの実地訓練の場として
(コミュニケーション能力の向上)
- データ収集の必要性

概要

- いらなくなった本を回収し、これから使う学生に受け渡す
- 本の回収時には、文房具等と交換
- 本の頒布は無料、ただし、アンケート記入を必須

③学生同士の交流創出イベント『略して本活』

結果

■ 2010年2月、3月、4月に本を回収

→計492冊の書籍を回収

■ 2010年4月中旬の一週間が頒布期間

→約400人が来訪。202人に414冊の書籍を頒布



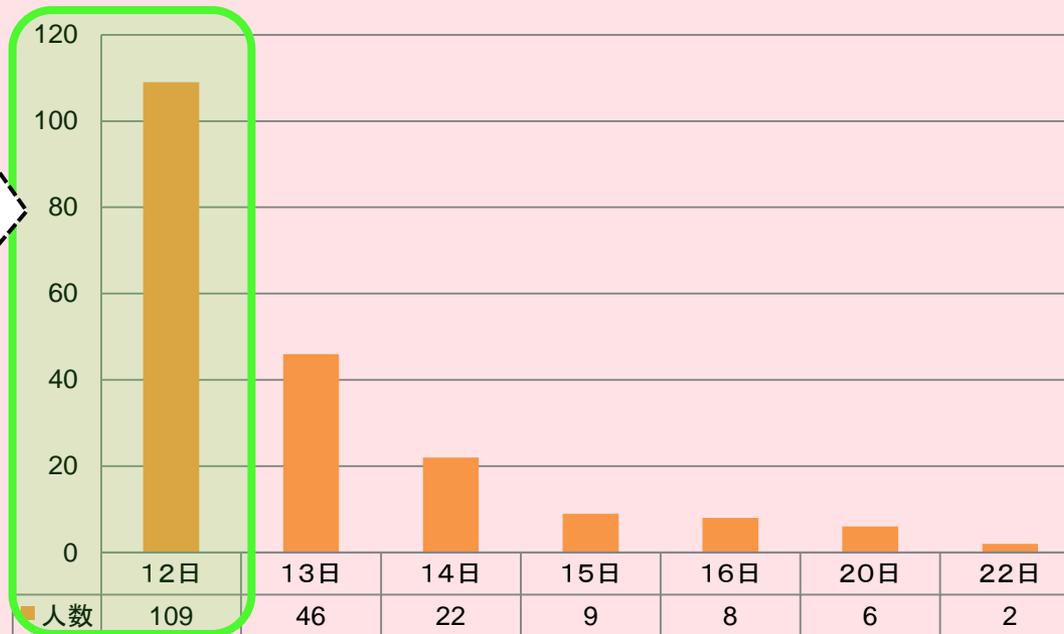
- ・予想を上回る来場者数
- ・本を通してコミュニケーションが促進される
- ・立ち話であっても、軽い相談を解決することができた
- ・ピア・サポートの周知
- ・ピア・サポーターのモチベーションアップ

③学生同士の交流創出イベント『略して本活』

結果

■ 4月12日～16日、20日、22日の日別来場者数(アンケート枚数)

開催日別



・初日の来場が圧倒的に多い。
・教科書のリストを持ってくる人が多かった。



③学生同士の交流創出イベント『略して本活』

結果

- ・授業で必要な教科書だから
- ・今後、専門分野の参考になりそうだから
- ・語学・資格の勉強のために
- ・趣味（小説の内容に興味があったから 等）

本を選んだ理由

教科書であるという「必要に迫られて」本を選んでいる回答も多かったが、今後のことを考えたり、専門外に視野を広げるために本を選んでいるという回答もあった。

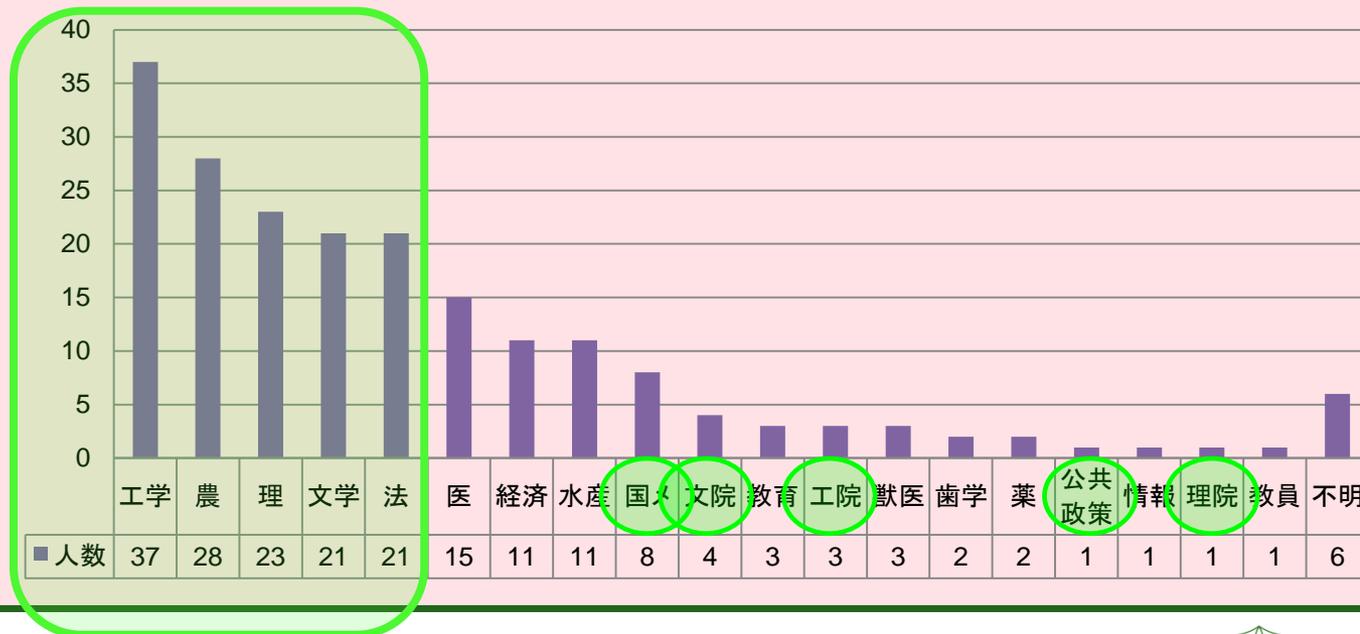


③学生同士の交流創出イベント『略して本活』

結果

- 来室者を学部別に見ると、
工学部、農学部、理学部、文学部、法学部の順に多い。
- 院生の利用も

学部別



③学生同士の交流創出イベント『略して本活』

結果

「学生生活で力を注ぎたいこと」

学習面	127	62.9%
課外活動(部活・サークル)	62	30.7%
アルバイト	16	7.9%
読書	7	3.5%
生活	5	2.5%
資格取得	3	1.5%
その他	46	22.8%
無記入	13	6.4%

「学生生活で不安なこと」

勉強	58	28.7%
生活全般	32	15.8%
金銭	17	8.4%
進路	15	7.4%
大学生活	14	6.9%
人間関係	12	5.9%
その他・不明	27	13.4%
ない	20	9.9%
無記入	22	10.9%



④ 今後の課題と活動予定

効果的な**広報**のためには、**組織の位置付け**の明確化が必要。逆に、**組織の位置付け**が明確化していれば、的確な**広報**が可能に。

広報

広報によって相談者が増えたり、相談員が増えることで、成員の**モチベーション**および**人材**の維持につながる。逆に、成員の**モチベーション**が高く、**人材**も良ければ、そのこと自体が**広報**になっていく。

組織の位置付け

成員の維持

・モチベーション
・人材

組織の位置付けが明確化すると、成員は「誰のために何をしているのか」という自分の位置付けを理解することになり、**モチベーション**が高まる。逆に成員それぞれが、自分の**活動の位置付け**を明確化することにより、**組織の位置付け**も明確化される。

今後の展開

① 広報ビデオ制作

ピア・サポートのマーケティングをメンバーで考え、映像を制作。

② ピア・サポート・カフェ

相談の敷居を下げるために、学生同士の交流の場をデザイン。





ご清聴ありがとうございました

